

とよなかがんサロン開催報告

第2回 平成26年7月28日開催

【参加者】患者：2名 家族：1名

医療スタッフ：医師1名 看護師2名 臨床心理士1名 MSW2名

【開催内容】ミニレクチャー：治療と一緒に始めよう「緩和ケア」（30分）

担当 市立豊中病院 がん看護専門看護師 二宮由紀恵

談話会：60分

梅雨が明け、暑くなったばかりの時期の開催となった第2回目の「とよなかがんサロン」は、医師をはじめとした医療スタッフの参加が多い会となりました。

ミニレクチャーでは、当院のがん看護専門看護師から、がんの診断と同時に始めることができる「緩和ケア」についてお話しさせていただきました。

内容

「緩和ケア」とは、がんによる心と身体の痛み・苦痛を和らげることであり、治療の初期の段階から、手術・化学療法・放射線療法などと連携しながら行っていきます。治療や病気の時期に関係なく、身体的・精神的につらさがあるときにはいつでも受けられます。必要に応じて「緩和ケアチーム」もサポートしています。療養の中で、気になること、つらいことがあれば、医療者に相談しましょう。

また、がんの症状である「痛み」は、がん患者の7割が経験していて、適切な治療をすれば9割が緩和できます。持続する痛みは、治療や日々の生活に影響を与えるので、症状を正しく医療者に伝え、我慢せずに治療し、定期的に鎮痛薬（医療用麻薬を含む）を使うことが大事です。

緩和ケアや鎮痛薬に対し、マイナスなイメージを持たれている方もおられるかと思いますが、こういったレクチャーをきっかけに、正しく知っていただければ、と思います。

その後の談話会では、治療を続けていくなかでの社会とのつながりについての話題になりました。

内容

がんにかかったことや、治療が長期間になると、「自分にとって仕事とはなんなのか」「仕事だけでなく、いろんな場で人とたくさんつながることで、社会とつながっていきたい」という思いから、仕事への考え方が変わる方も少なくないようです。

また、がん治療にかかる医療費や医療格差の話題から、国の施策についての議論にもなりました。

仕事と治療の両立、仕事と体調の兼ね合いについて悩んでいる患者さんは、きっとたくさんおられるのではないのでしょうか。この「とよなかがんサロン」も、多くの患者さん・ご家族同士がつながる場になっていけたら、と思います。